



蛭雪会報

茨城県立境高等学校同窓会会報

創刊号

(年1回発行)

発行所

茨城県立境高等学校

蛭雪会

茨城県猿島郡境町 175

Tel 0280 (87) 0123

ご挨拶

「ご支援をよろしく」

同窓会会長 酒井義博



昨年8月3日開催された平成26年度境高校同窓会総会において、萩原康男会長が勇退され、私が後任の会長としてご承認をいただきました。萩原前会長には、40年の長きに亘って同窓会の発展と母校教育の充実のためにご尽力いただき、衷心より感謝申し上げますと共に、今後ともご指導のほどお願い申し上げます。

私はもとより非力ではありますが、本部役員の方々と力を合わせ務めてまいりる所存ですので、今後ともご支援・ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

境高校は、昭和3年茨城県立境中学校として設立されて以来、87年の歴史を有し、2万数百名を数える卒業生を世に送り出して参りました。現在、それらの方々が各界においてそれぞれに活躍しておられることは力強い限りです。

さて、同窓会の役割とは、一つには同窓生同士の親睦をはかること、もう一つは、母校である境高校や後輩たちを後援すること、などと思えます。

親睦をはかる活動としては、年に1度総会（8月の第1日曜日）を開き、その年の事業報告、会費の収支報告、学校の近況報告などをしています。また、クラス会や同期会などを開催した時は、申し出により会より

補助金（1万円）が支給されます。それに、今年より『蛭雪会報』を年に1回発行することを始めました。

また、学校への後援としては、奨学金の授与・優れた活動をした部活動への援助、卒業生への卒業記念品の贈与などを行っています。これからは、学校への後援（特に、奨学金制度の充実）にもっと力を注ぐ必要性を感じています。

そのような点からも、有力な卒業生が大勢おられるということは、頼もしい限りです。よろしくご協力ください。

「蛭雪会報」創刊に寄せて

学校長 石山 巖



この度は、境高等学校「蛭雪会報」の創刊、おめでとうございます。また、平素より本校教育活動へのご支援・ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。境高校同窓会の新たな活動が、より一層の強固な結びつきと活性化に繋がるものと祈念いたします。

さて周知のように、境高校は昭和3年、茨城県立境中学校として地域の熱い要望により設置され、以来87年の歴史を刻んで参りました。昭和23年には新学制により茨城県立境高等学校と改編、その後定時制や農業科も時代の流れの中で廃止、全日制普通科高校として文

武両道を旨に、社会を支える人材の育成に努めてまいりました。以来昨年度までに、旧制中学校での卒業生1,088名と高等学校での卒業生19,453名の合計20,541名を輩出しました。その生徒たちの活躍を支えるものとして、同窓会からの奨学金制度があります。これは平成2年度より始まり、昨年までに40名を超える人数になりました。この中には、外務省に入省した者や大卒卒業後にテレビ局のアナウンサーに採用された者、筑波大学をはじめ難関大に合格した者など多士済々、生徒たちの進路支援に大きく寄与しております。また学業面ばかりでなく、部活動でも活躍する生徒への支援も頂いております。昨年度は関東大会や全国大会、国体などで、運動部・文化部双方のご支援を頂き同時に垂れ幕でその顕彰を掲示させていただきました。更に、平成25年度にはPTAとの協賛により旧校舎のレプリカを作製、現在、学習館1階ロビーに展示しております。

このように、同窓会の皆様からのご支援は、境高校教育活動の円滑な運営に欠かせないものであります。これもひとえに、前会長萩原康男様・現会長酒井義博様を始め役員及び会員の皆様のご理解の賜物と感謝いたします。今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年度同窓会総会報告

総勢155名、盛會裏に終る

昨年夏の平成26年8月3日(日)に境町長井戸のベルさかいを会場に総勢155名の多数の参加を戴き茨城県立境高等学校同窓会総会が開催されました。

境高校同窓会(蛍雪会)では、昭和55年度から毎年8月の第1日曜日にその年にめでたく還暦を迎えた同窓生の皆様を招待し、



最後に校歌斉唱

総会を開催しております。昨年度の総会は高校25期生(全日制)・26期生(定時制)の皆様を招待させて頂きました。

総会では、7月に行われた本部役員会の席で審議された同窓会事業、会計決算・監査報告、事業計画、活動予算案、その他の事業が審議され、議決承認を戴いております。

また、総会の最後には参加者全員の自己紹介と近況報告が行われました。何十年振りかに再会する方もおられ、多くの同窓生の皆さん同志、和やかに懐かしそうお話しになっておられました。

新体制発足

昨年度の総会では、長らくその任に就いて来られた萩原康男会長をはじめ、小松原康之助氏、猪瀬正巳氏、木塚治雄氏の3方の副会長と、合わせて4名の役員の方が辞任され、新たに高校

12期生の酒井義博氏が会長、ついで高校14期生の石山征夫氏、高校18期生の神坂守男の両氏が副会長、高校25期生の木村泰之氏が監査に就任することが承認されました。

(野村正昭)



会場前にて記念撮影

本部役員

名誉会長 石山 巖 高26 学校長

会長 酒井義博 高12

副会長 仲村敏明 高13

副会長 石山征夫 高14

副会長 神坂守男 高18

副会長 猪瀬晴男 高19

副会長 木村泰之 高25

校内幹事

幹事長 野村正昭 高26

幹事 蒔田 巧 教頭

幹事 荻野幸子 事務室長

幹事 猪瀬幸夫 高27

幹事 井上豊 高32

幹事 星野文男 高35

幹事 新井智子 高35

会計幹事 倉持和史 高43

幹事 細島洋一 高43

幹事 佐々木咲子 高50

幹事 羽石直樹 高60



3月	卒業式(役員参列)
2月	卒業生同窓会入会式 同窓会卒業記念品 (年額84,000円)
10月	同窓会本部役員会 同窓会奨学生選考会議 同窓会奨学生奨学金交付式
8月	同窓会総会 (還暦同窓生・恩師招待)
7月	陸上部・吹奏楽部・弓道部 写真部
6月	同窓会総会発起人会 同窓会本部役員会 高校総体壮行会 (部活動奨励金贈呈)
5月	関東大会壮行会 (部活動奨励金贈呈) 卓球部・吹奏楽部・陸上部 剣道部・バレーボール部 写真部
4月	同窓会校内幹事会議 (年間活動計画等) 境高校職員歓送迎会(役員出席) 入学式(役員参列)

平成26年度 境高等学校同窓会運営費決算書

収入	4,311,827 円
支出	1,955,371 円
残高	2,356,456 円(次年度へ繰越)

1.収入の部

項目	予算額	決算額	増減	摘要
会費	1,485,000	1,479,600	5,400	5,400円×274名
繰越金	882,668	882,668	0	前年度より
繰入金	1,945,100	1,945,100	0	奨学金用普通預金より組入
雑収入	32	4459	△4,427	利息, 同窓会名簿代金, 卒業学年残金
合計	4,312,800	4,311,827	973	

2.支出の部

項目	予算額	決算額	増減	摘要
会議費	200,000	79,153	120,847	役員会議費等
総会費	300,000	375,400	△75,400	総会運営費等
事務費	10,000	29,160	△19,160	封筒等消耗品
通信費	30,000	5,658	24,342	郵送料等
慶弔費	100,000	0	100,000	香料等
餞別費	150,000	80,000	70,000	転退出者への餞別
同窓会補助費	150,000	50,000	100,000	同窓会補助
卒業記念品費	500,000	373,680	126,320	卒業記念品代
生徒活動費	800,000	710,320	89,680	大学合格垂れ幕, 部活動での高校 総体・関東大会祝・垂れ幕等
奨学金	252,000	252,000	0	奨学金用資金
予備費	1,820,800	0	1,820,800	
合計	4,312,800	1,955,371	2,357,429	

3.残金 2,356,456 円は 次年度へ繰り越します。

部活動の活躍

境から全国へ

《吹奏楽部》

『第14回東日本吹奏楽部大会』

『金賞受賞の栄冠!』



熱演する吹奏楽部員

昨年度の境高校の部活動は大変華々しい活躍を遂げました。

とりわけ境高校吹奏楽部は、創設以来の初の快挙である東日本吹奏楽部大会金賞という輝かしい栄冠を獲得することができました。この吉報はすでに吹奏楽部OB諸氏に確実に伝わっているようです。

顧問(塚田こずえ教諭)の所感では東日本吹奏楽部大会の演奏では必ずしも全てが上手くいったわけではないようでしたが、部員たちが、取り組んだ作品の魅力を十分に感じとり、日頃の練習の過程で様々な積み重ねをかみしめながら、心を込めて演奏できたことがこの度の金賞受賞につながったのではないかと思います。また、このような金賞受賞とい

う素晴らしい栄冠を戴くことができたことを自信として境高校吹奏楽部員にはさらなる努力と発展を期待したいと思えます。



《陸上競技部》

棒高跳び

長崎国体出場

2年 内田涼太

私は長崎国体少年A棒高跳びに茨城県代表選手として出場することでも緊張いたしました。しかし、国体関係の先生方に激励のお



練習光景

言葉を戴き試合当日はしっかりと自信を持って競技に挑むことができました。本番の試合では自分のいつも通りの跳躍ができれば入賞できると確信して跳びましたが、結果は残念ながら入賞できずに競技が終了してしまい、とても悔しい思いをするとともにあらためて全国の舞台で試合をすることの難しさを経験することができました。今後は今回の長崎国体で自分のことを応援並びにご指導して下さいました先生方や関係諸氏への感謝を忘れずにさらなる努力を重ねていきたいと思えます。